

⑫ 結婚するとした場合の障壁

一年以内に結婚するとした場合に障壁となることは、男女ともに「結婚後の生活を維持していくため資金」が最も高く、男性で32.4%、女性で30.9%となっている。

図 2-26 結婚するとした場合の障壁（男性）

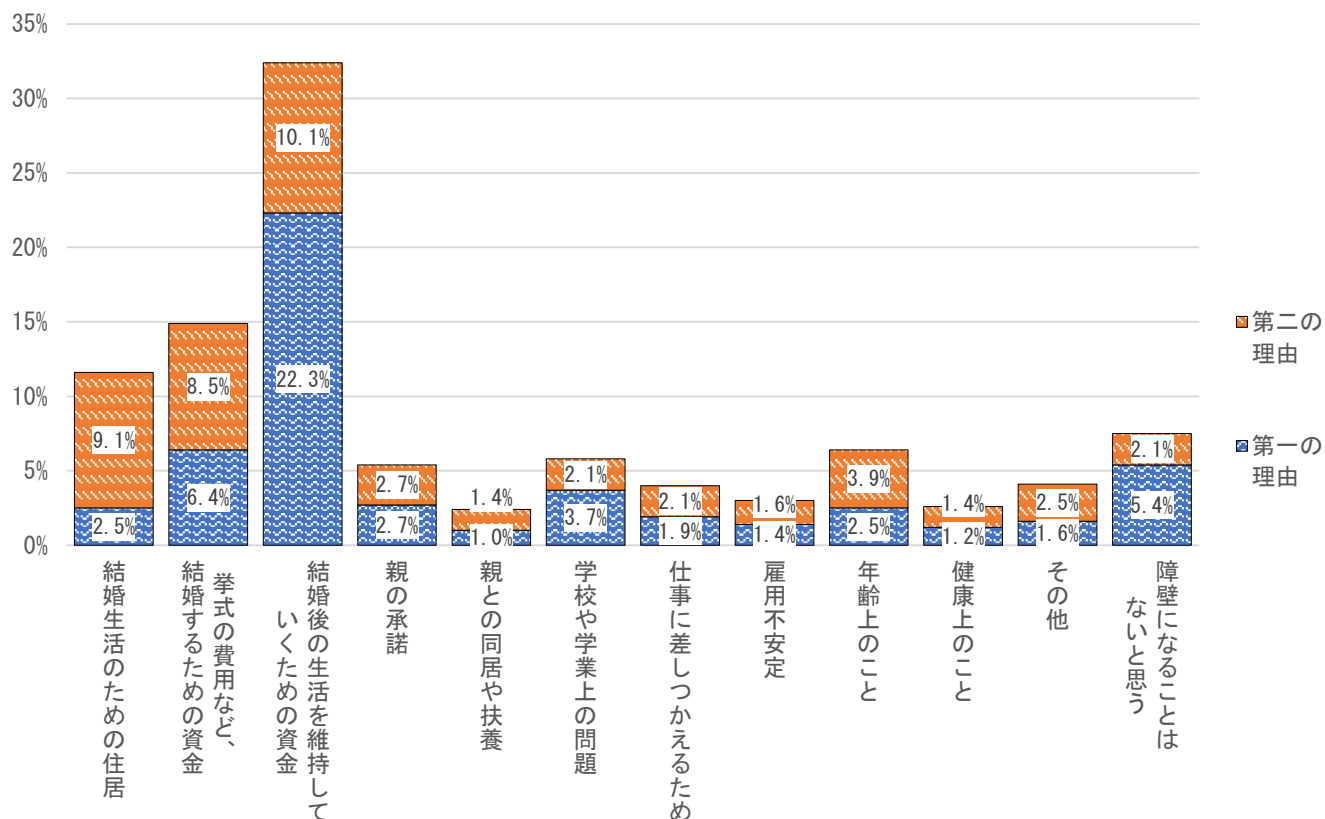
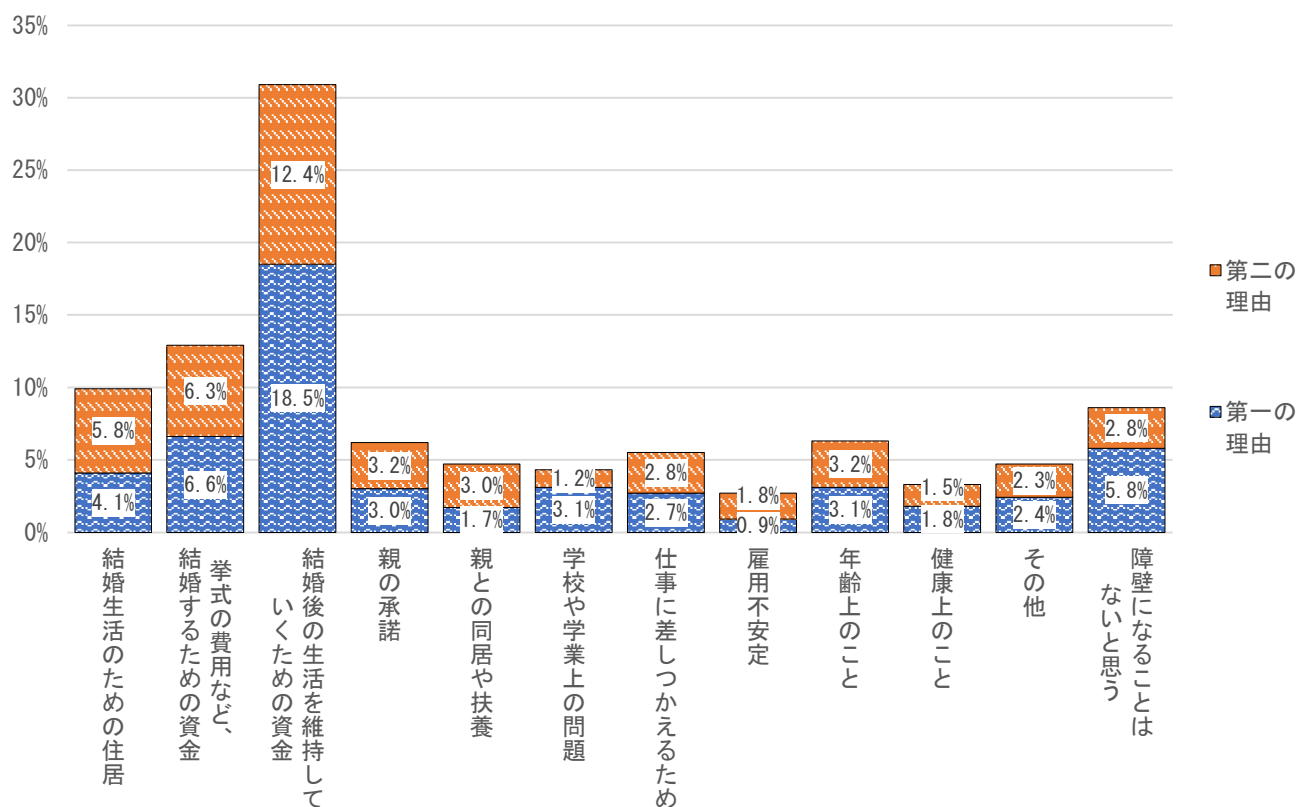


図 2-27 結婚するとした場合の障壁（女性）



前回調査・全国調査との比較でみると、男性では令和5年で「結婚生活のための住居」と答えた割合がやや高くなっているが、全体的に大きな変化はみられない。女性では「結婚生活のための住居」、「結婚後の生活を維持していくための資金」が前回調査に比べて3ポイント以上高くなっており、「仕事に差しつかえるため」と答えた割合が低くなっている。

※全国調査の「職業や仕事上の問題」は、「仕事に差しつかえるため」とし、「雇用が不安定」は該当なしとする。

※全国調査の「結婚資金(挙式や新生活の準備のための費用)」は「挙式の費用など、結婚するための資金」とし、「結婚後の生活を維持していくための資金」は該当なしとする。

※H30年度調査の「仕事をやめる必要がある」「仕事(または学業)にうちこみたい」は、合わせて「仕事に差しつかえるため」とする。

図 2-28 結婚するとした場合の障壁（前回・全国との比較）（男性）

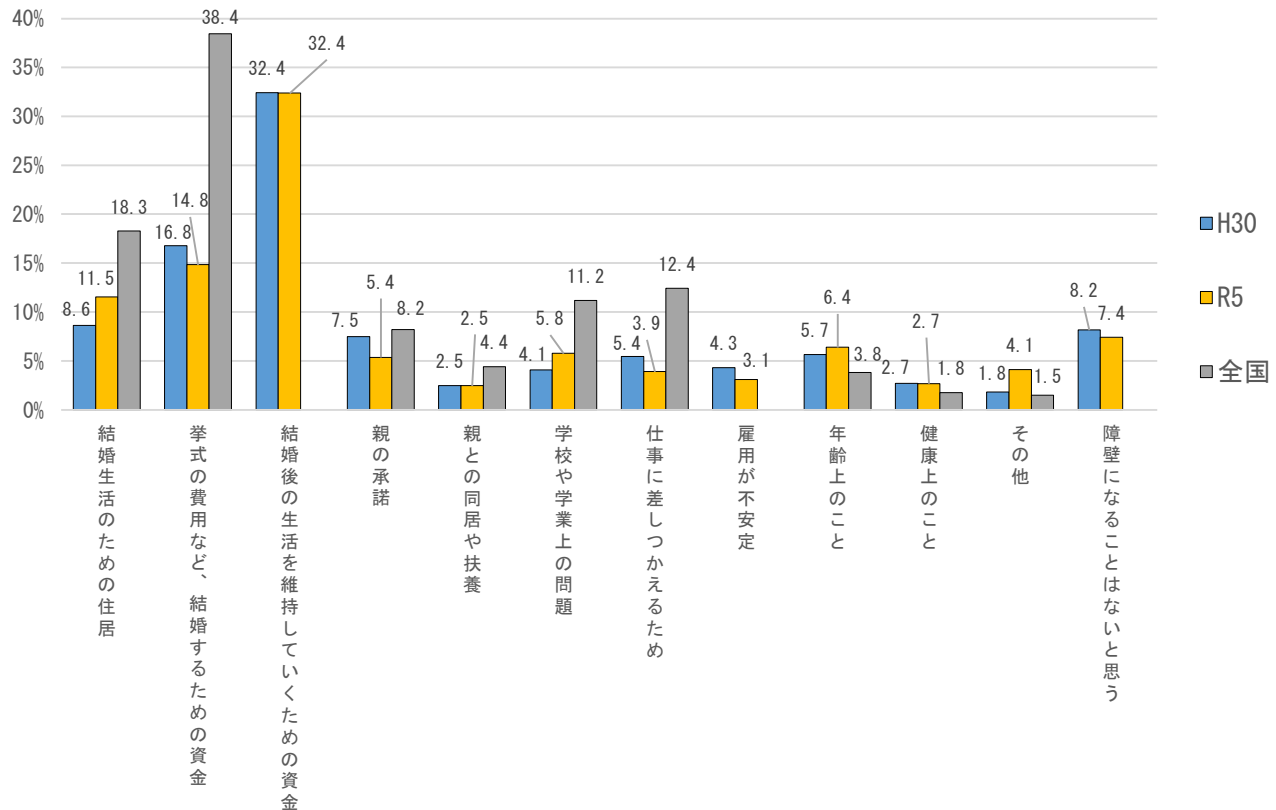
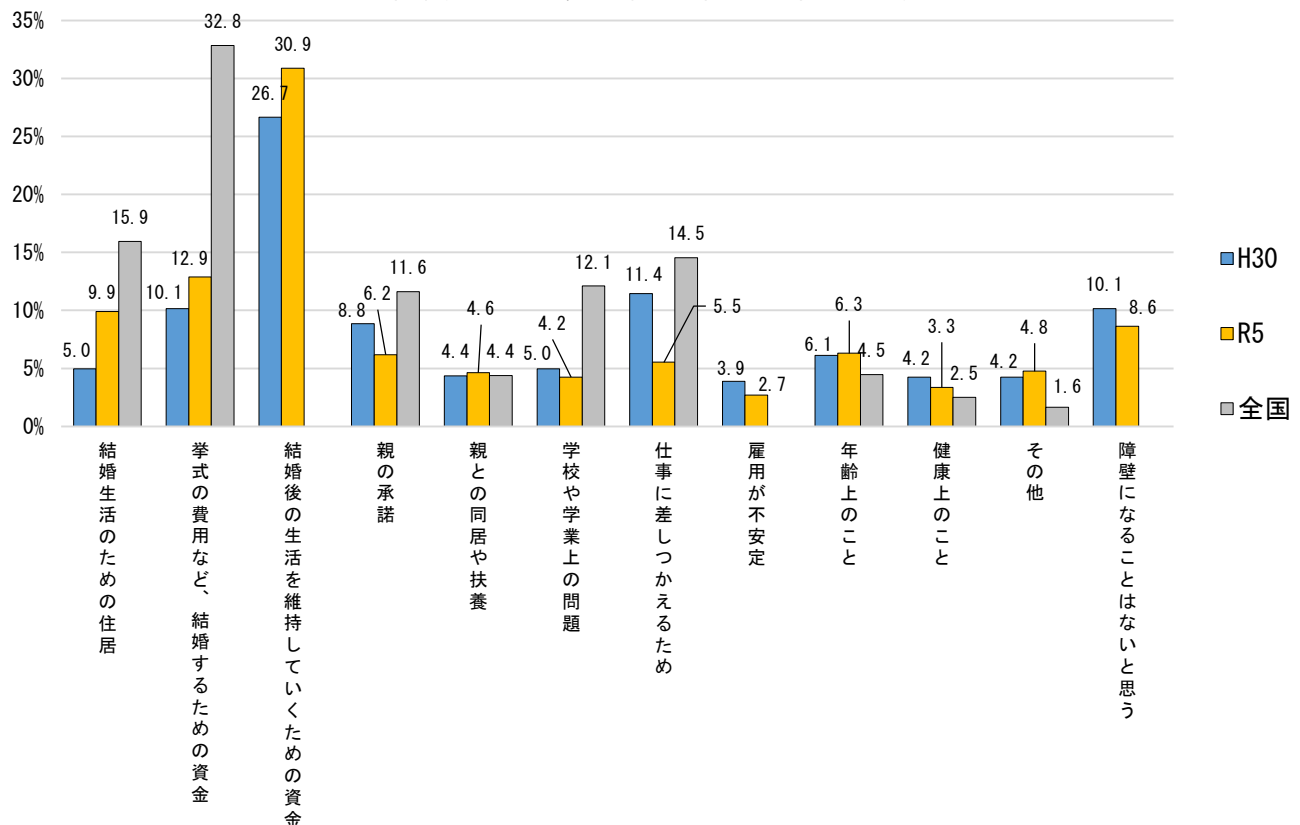


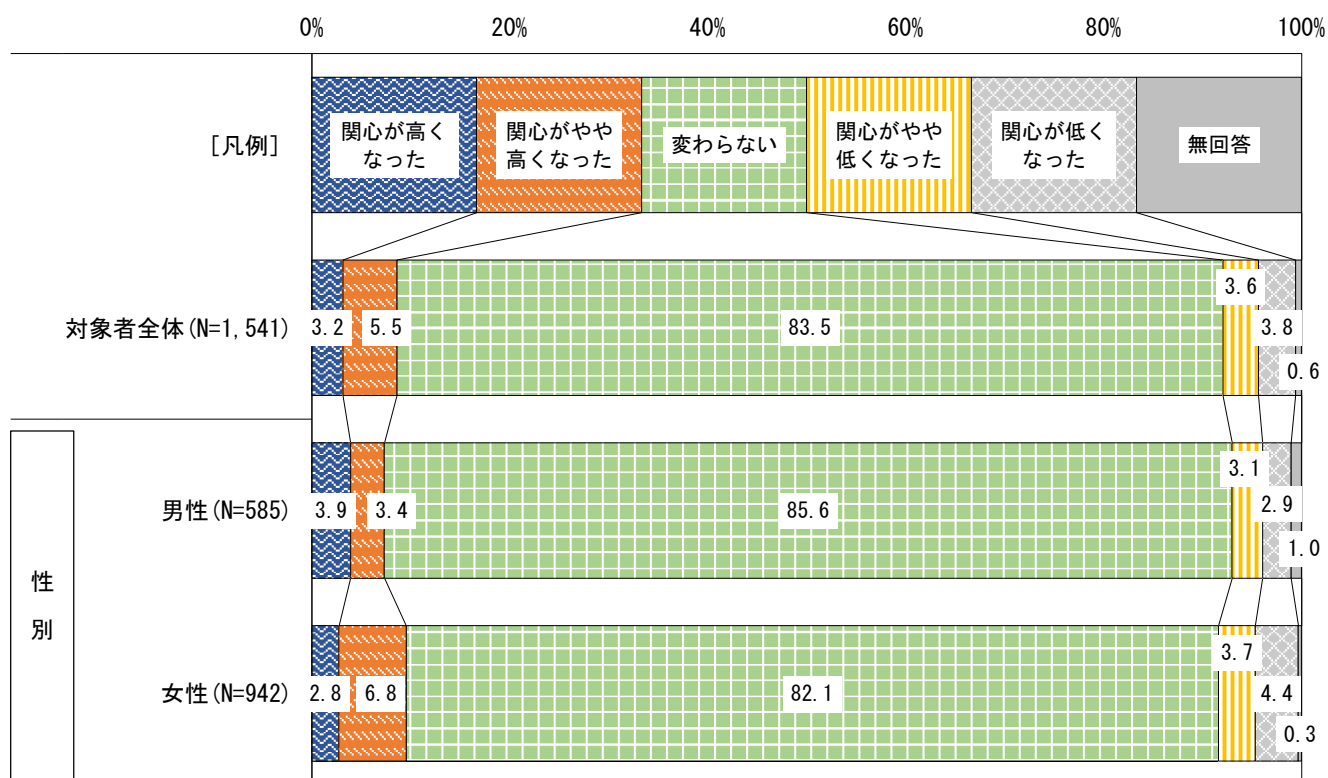
図 2-29 結婚するとした場合の障壁（前回・全国との比較）（女性）



⑬ 新型コロナウイルス感染症拡大前と比較した結婚への関心の変化

新型コロナウイルス感染症拡大前と比べ、結婚への関心に変化があったかについて、男女ともに「変わらない」と回答した割合が最も高く、8割を超えている。

図 2-30 新型コロナウイルス感染症拡大前と比較した結婚への関心の変化



⑭ 独身でいる理由

独身でいる理由について、男性では「出会いがないから」が合計 14.4%と最も高く、次いで「結婚生活を送るための金銭的ゆとりがないから」となっている。女性では「適当な相手にめぐり会わないから」が 15.5%と最も高く、次いで「結婚する必要性を感じないから」が高くなっている。

図 2-31 独身でいる理由（男性）

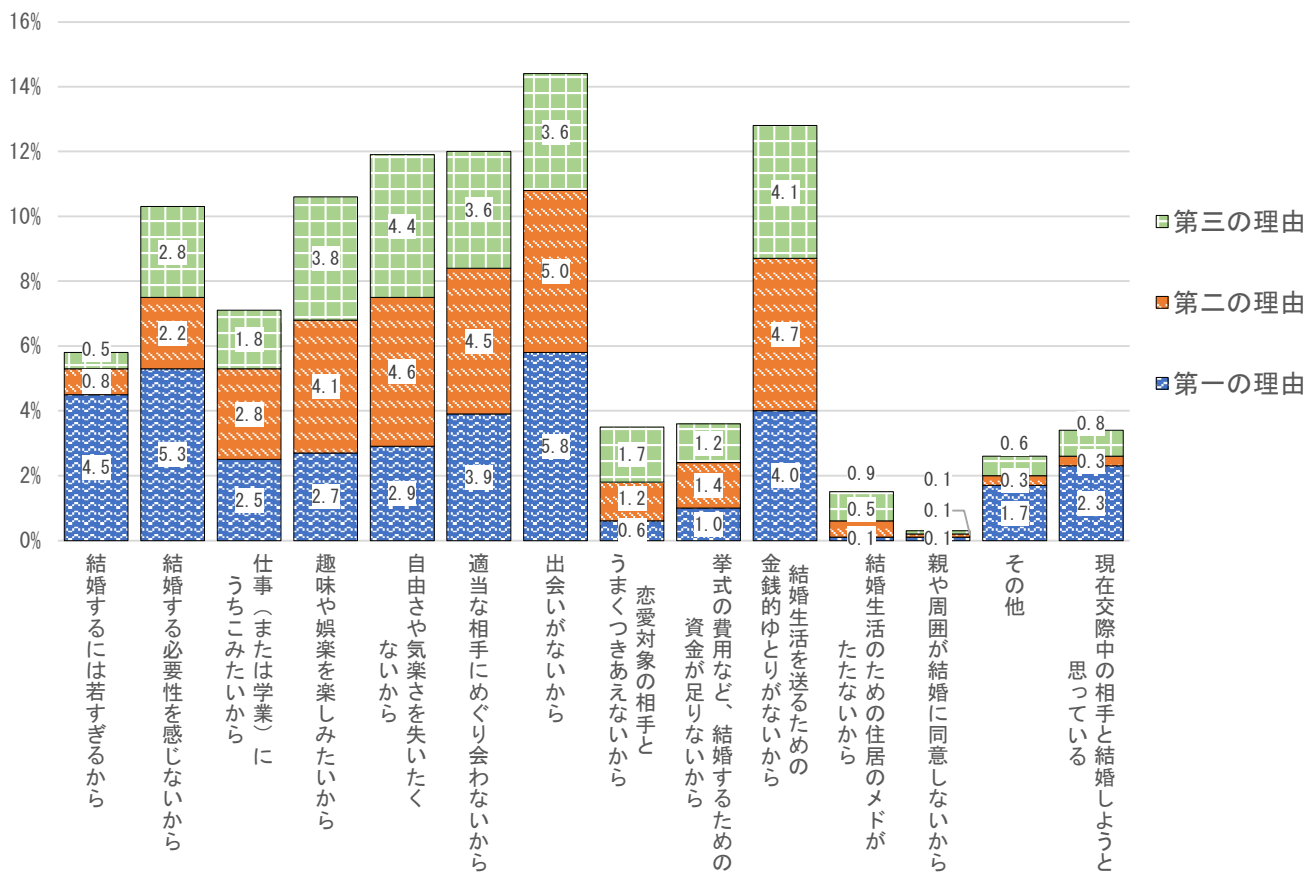
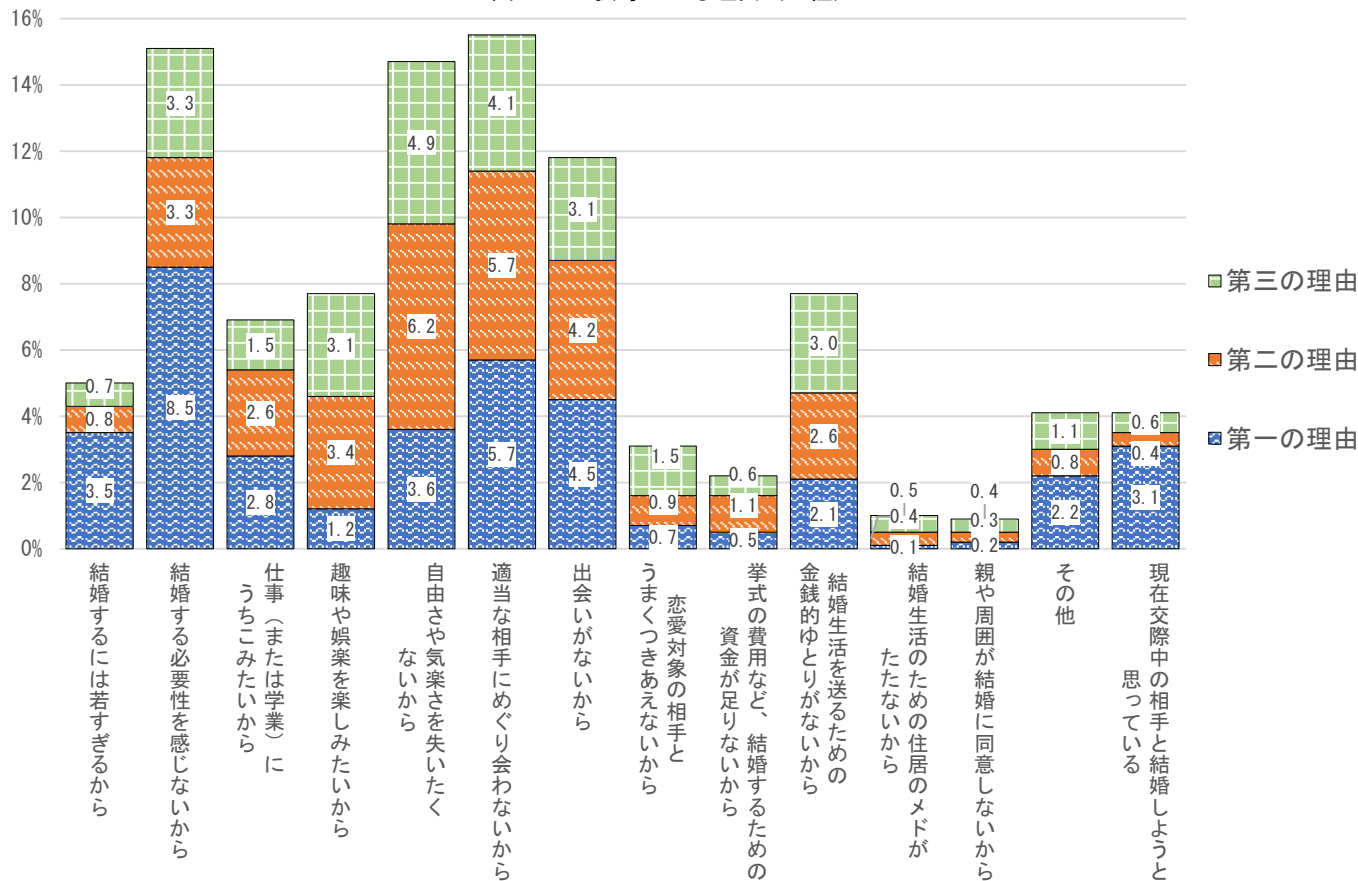


図 2-32 独身でいる理由（女性）



また、前回調査との比較でみると、男性では令和5年で「恋愛対象の相手とうまくつきあえないから」と回答した割合が4.4ポイント低くなっているが、それ以外では3ポイント以上の差はなく、大きな変化はみられない。女性では「適当な相手にめぐり合わないから」が4.8ポイント高くなっており、「恋愛対象の相手とうまくつきあえないから」と回答した割合は3.1ポイント低くなっている。

※全国調査とは選択肢が異なるため比較不可。

図 2-33 独身でいる理由（前回との比較）（男性）

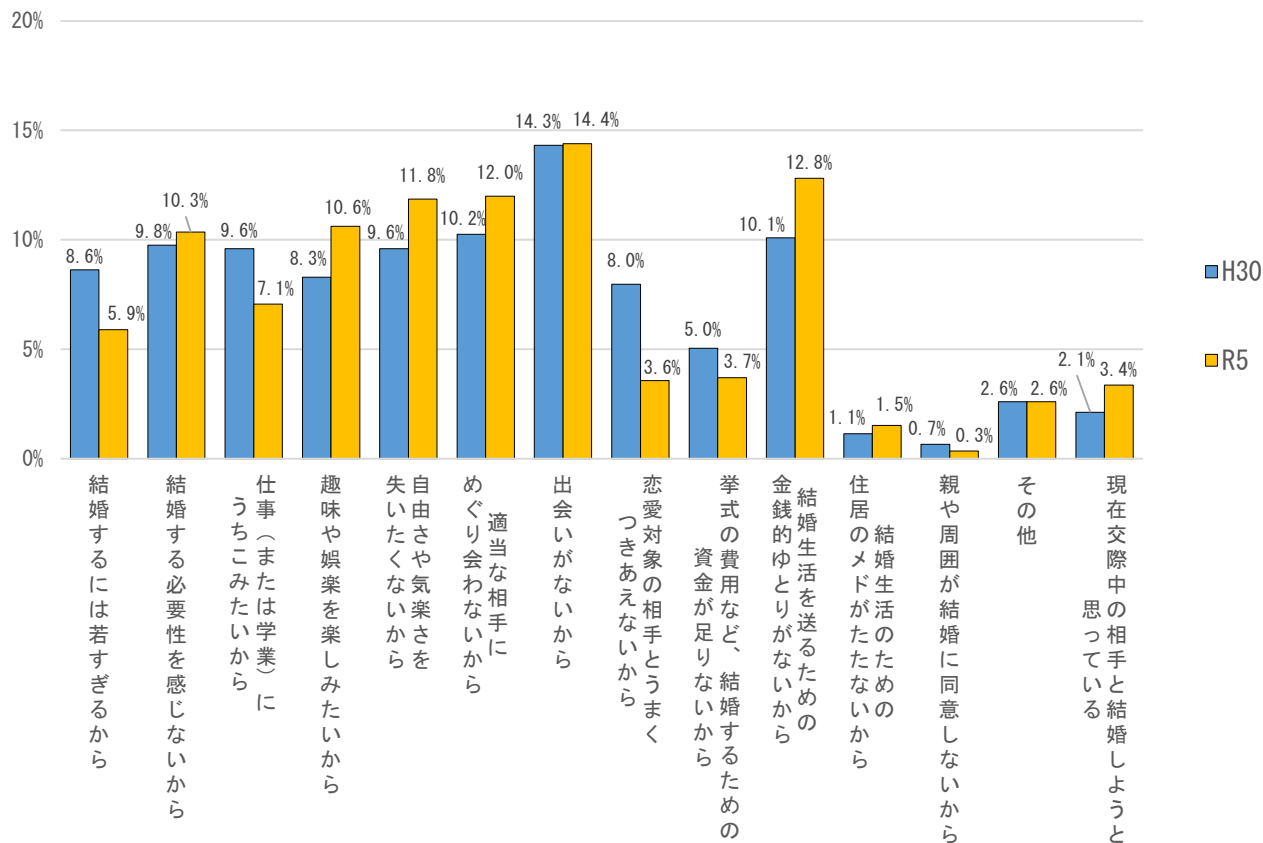
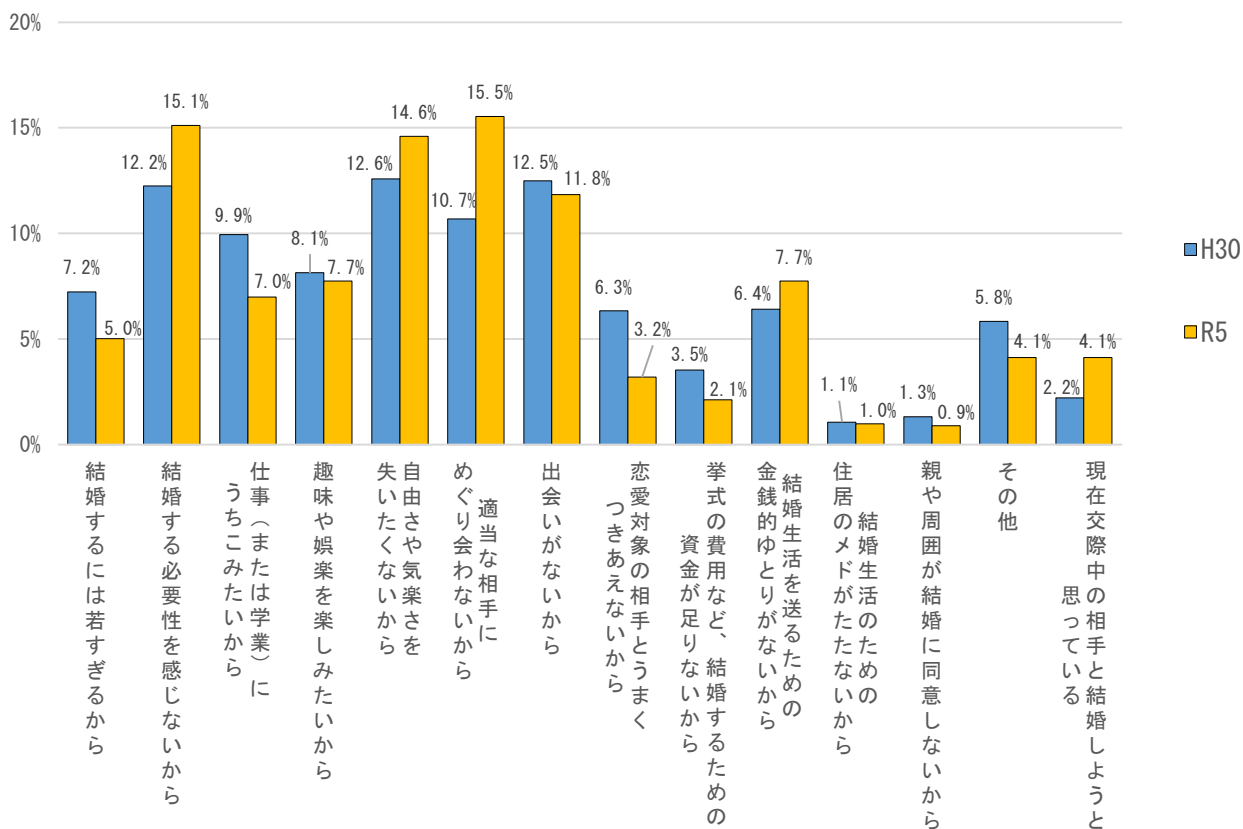


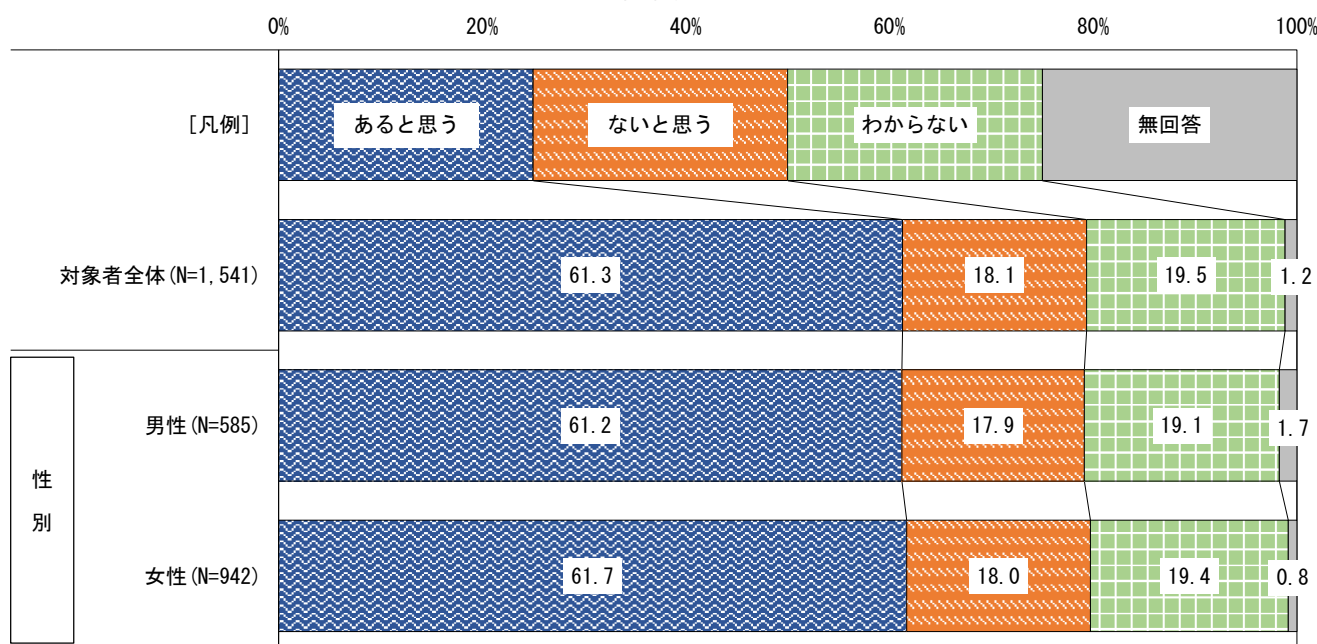
図 2-34 独身でいる理由（前回との比較）（女性）



⑮ 結婚することの利点

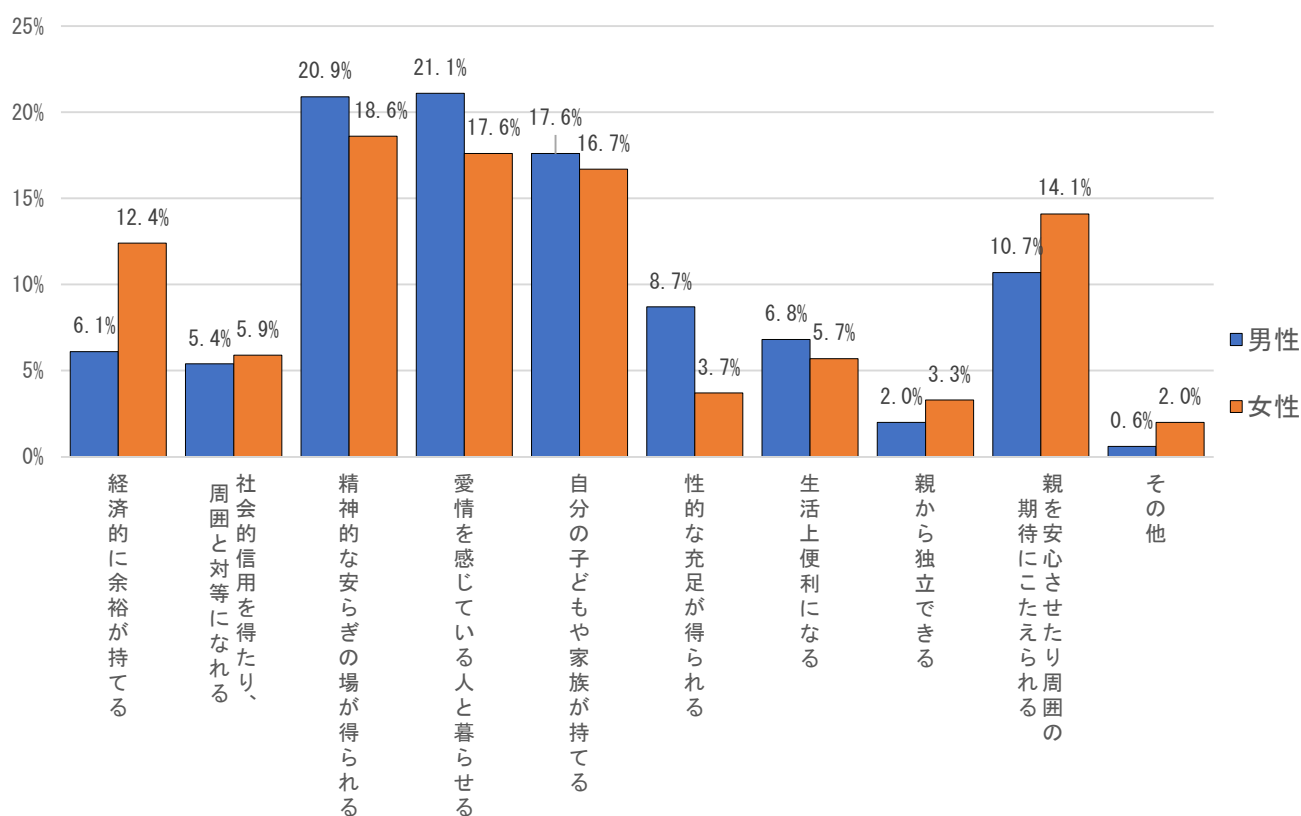
結婚することの利点について、男女ともに約 6 割が「あると思う」と答えており、男女差は特にみられない。

図 2-35 結婚することの利点



また、結婚することの利点が「ある」と答えた理由について、男性では「愛情を感じている人と暮らせる」が 21.1%と最も高く、次いで「精神的な安らぎの場が得られる」となっている。女性では、「精神的な安らぎの場が得られる」が 18.6%と最も高く、次いで「愛情を感じている人と暮らせる」となっている。男女で差が大きい項目としては、「性的な充足が得られる」で女性に比べて男性が 5.0 ポイント高く、「経済的に余裕が持てる」では、男性に比べて女性が 6.3 ポイント高くなっている。

図 2-36 結婚する利点の理由



また、前回調査・全国調査との比較でみると、男女ともに令和5年で「愛情を感じている人と暮らせる」と回答した割合が高くなっている。また、「精神的な安らぎの場が得られる」、「自分の子どもや家族が持てる」が低い傾向となっている。

図 2-37 結婚する利点の理由（前回・全国との比較）（男性）

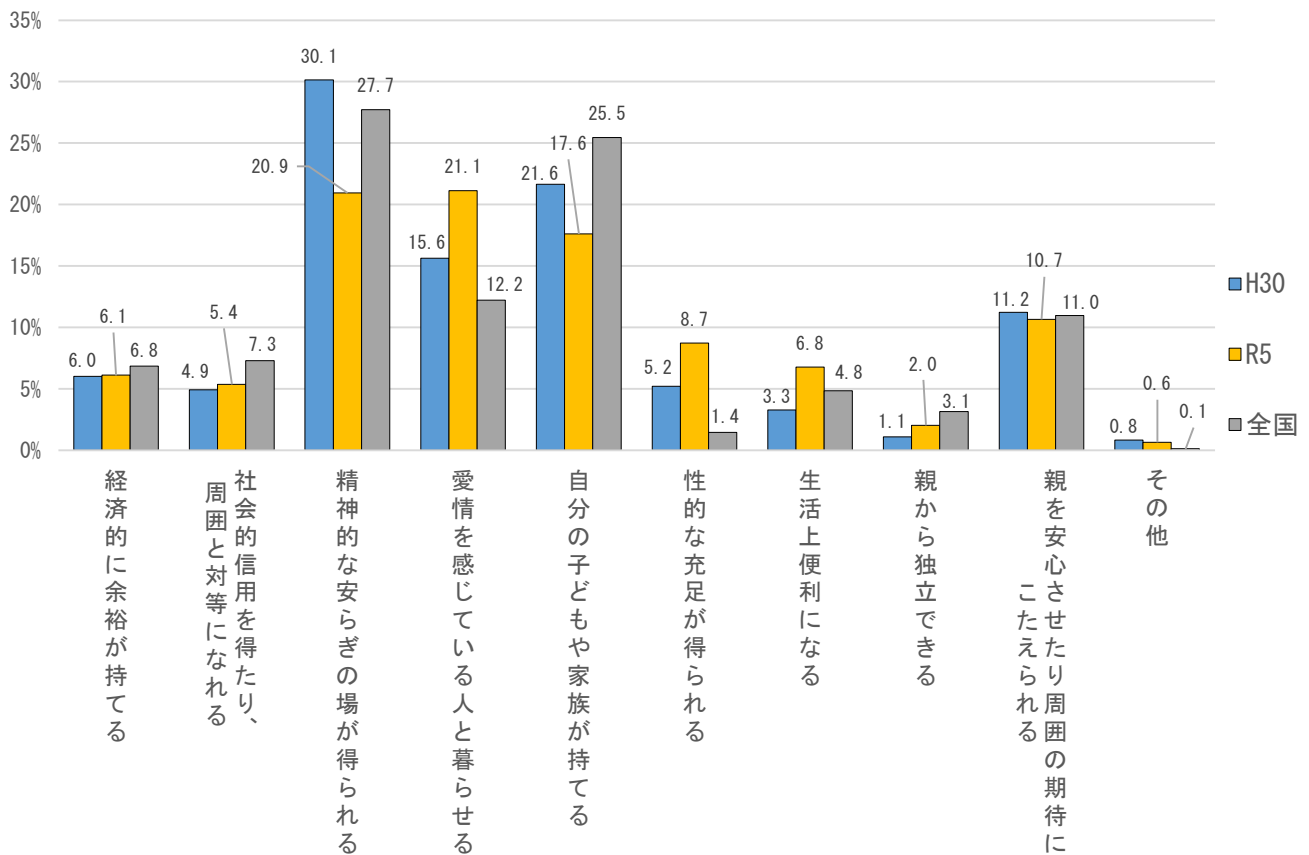
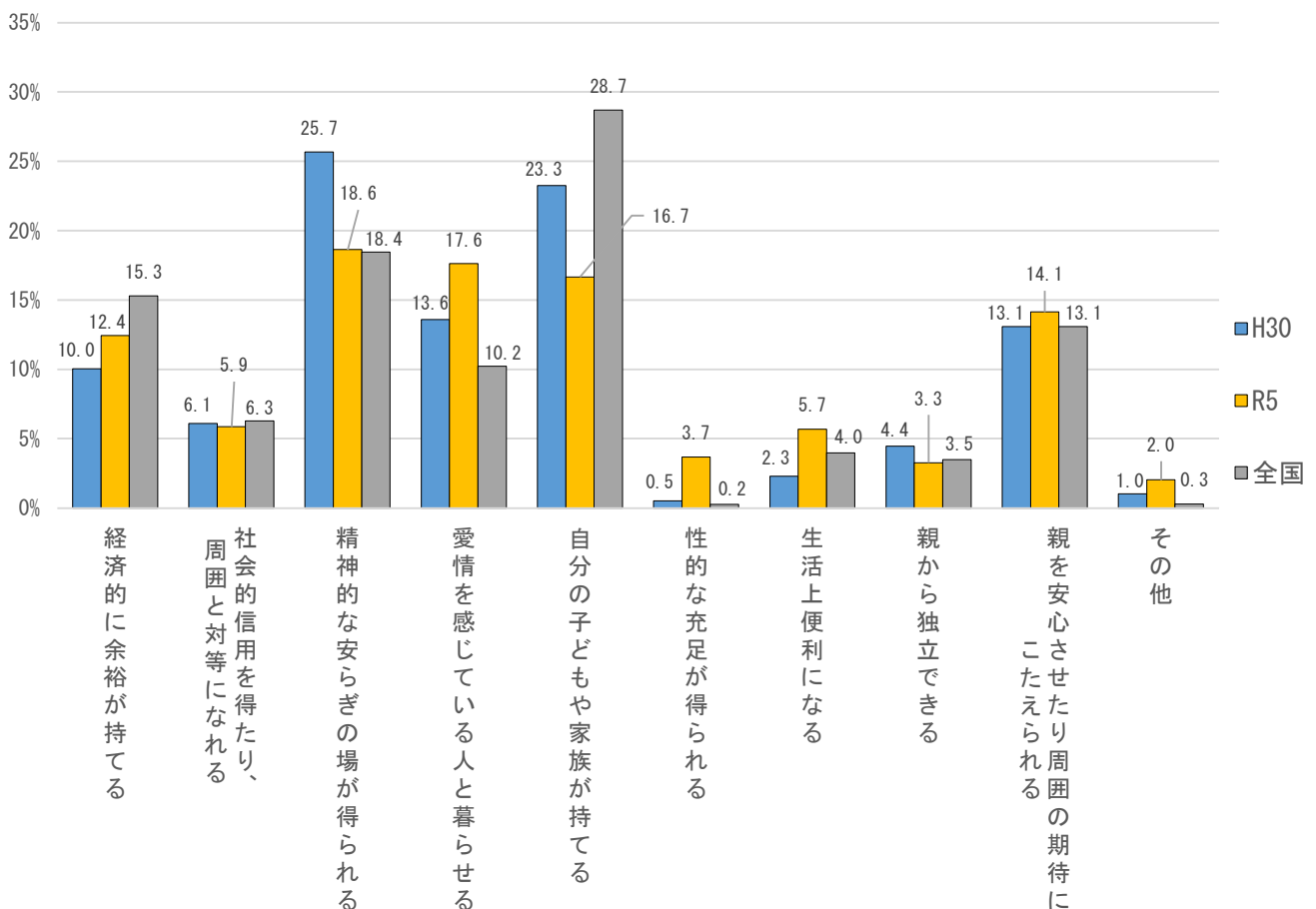


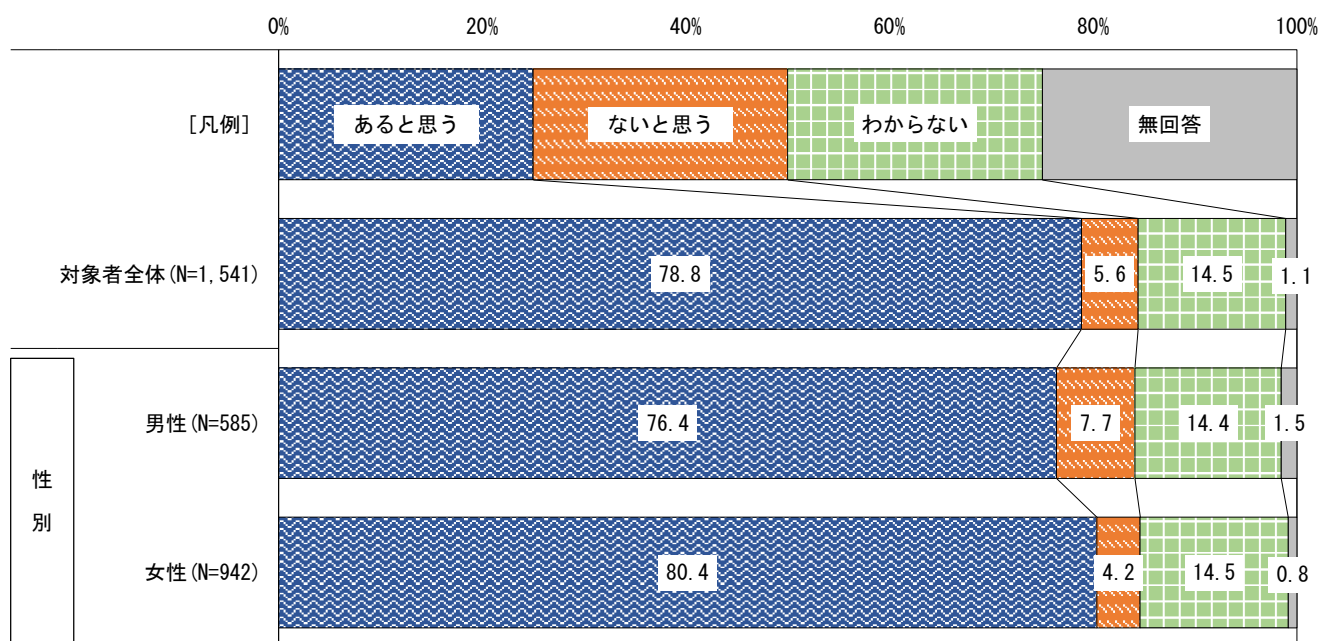
図 2-38 結婚する利点の理由（前回・全国との比較）（女性）



⑯ 独身でいることの利点

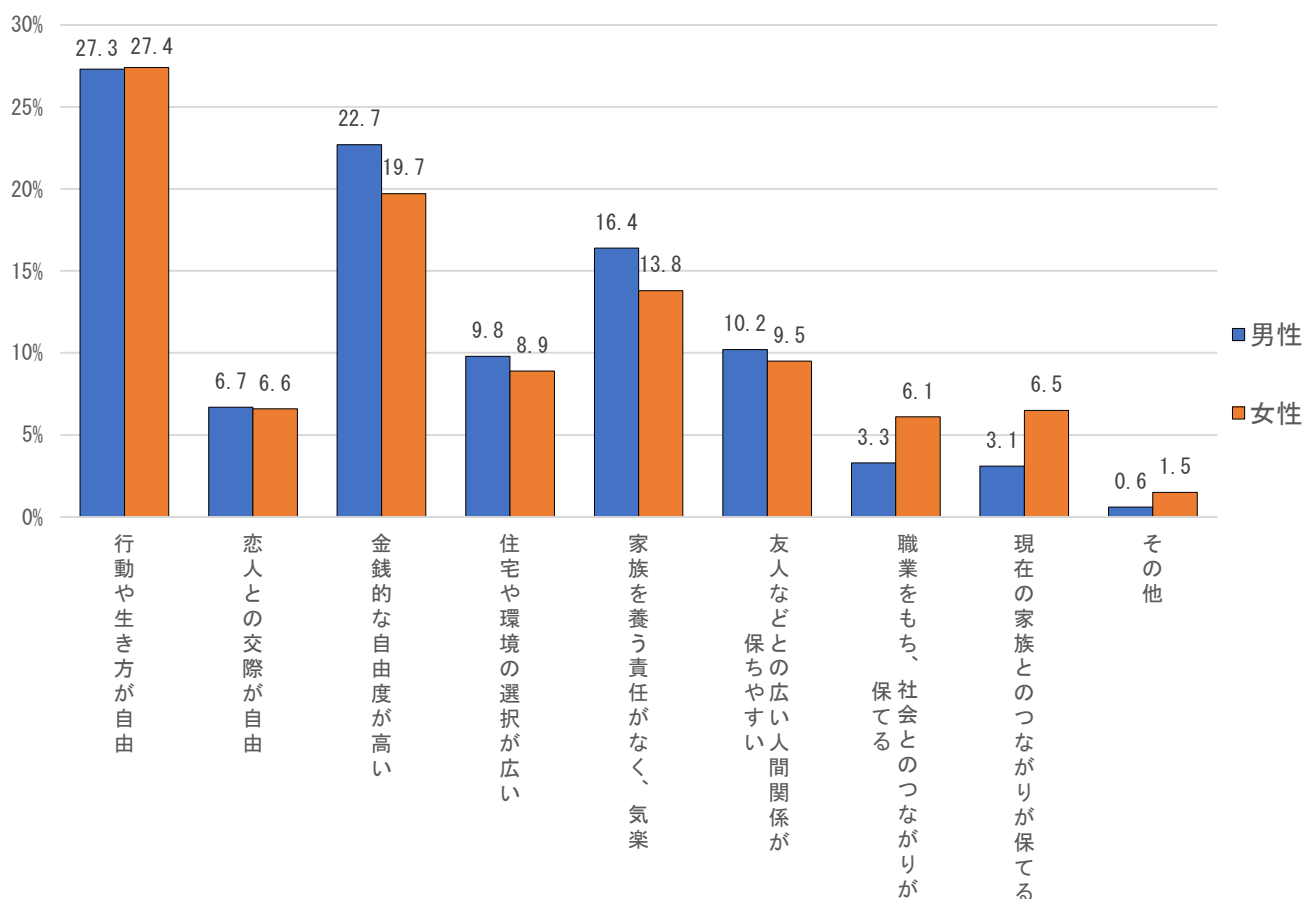
独身でいることの利点について、男女ともに「あると思う」が最も多く、男性で76.4%、女性で80.4%となっている。

図 2-39 独身でいることの利点



また、独身でいる利点の理由として、男女ともに「行動や生き方が自由」が最も高く、男性で27.3%、女性で27.4%となっている。次いで、「金銭的な自由度が高い」、「家族を養う責任が無く、気楽」となっている。男女で差が大きい項目としては、「現在の家族とのつながりが保てる」で男性に比べ女性が3.4ポイント高くなっている。

図 2-40 独身でいる利点の理由



また、前回調査・全国調査との比較でみると、男女ともに令和5年で「金銭的な自由度が高い」と回答した割合が7.2ポイント以上高くなっている。また、「行動や生き方が自由」は14.7ポイント以上低くなっている。

図 2-41 独身でいる利点の理由（前回・全国との比較）（男性）

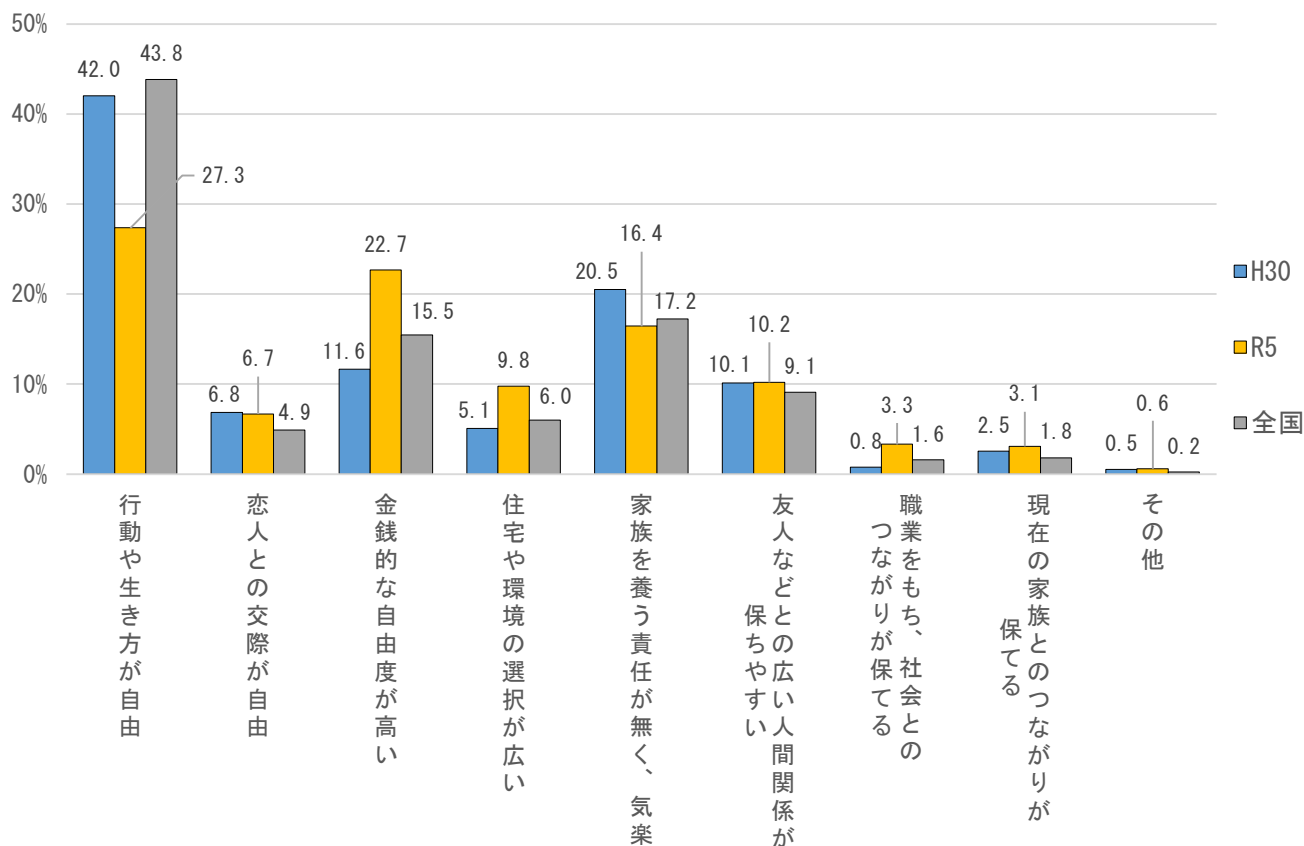
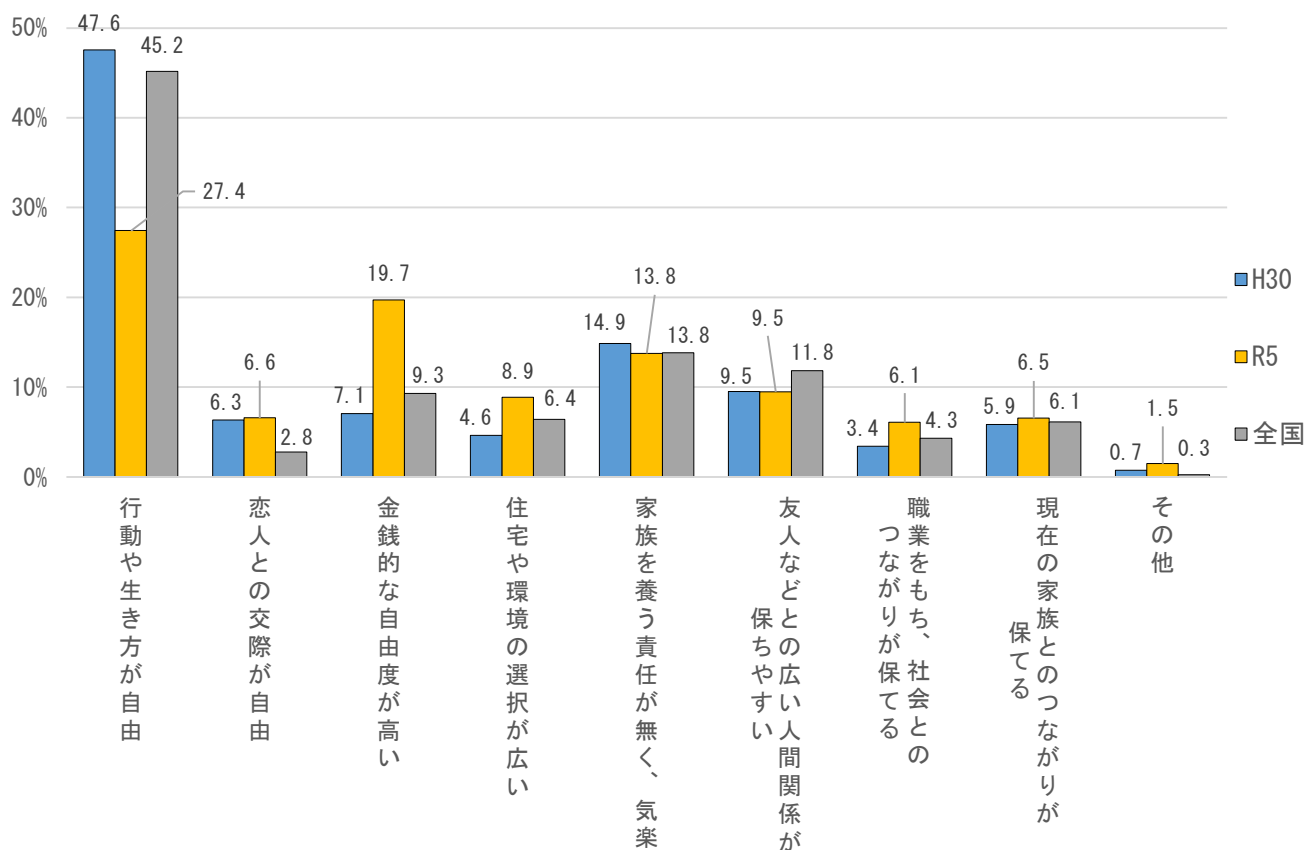


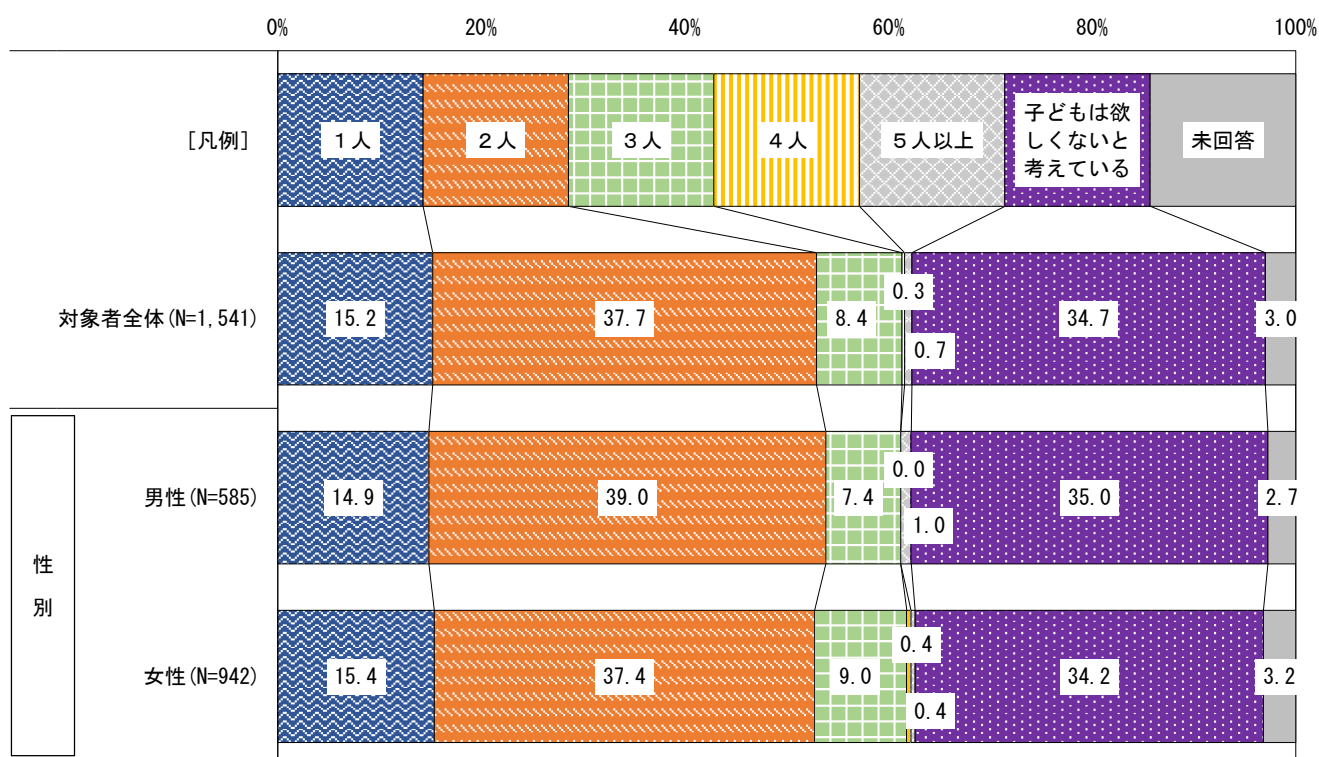
図 2-42 独身でいる利点の理由（前回・全国との比較）（女性）



⑪ 希望する子どもの数

希望する子どもの数について、男女ともに「2人」が最も高く、男性で39.0%、女性で37.4%となっている。次いで「子どもは欲しくないと考えている」が高く、男性で35.0%、女性で34.2%となっている。

図 2-43 希望する子どもの数



また、前回調査・全国調査との比較でみると、男女ともに「2人」と回答した割合が13.1ポイント以上低く、「1人」、「子どもは欲しくないと考えている」が高い結果となっており、複数の子どもの持つことを望んでいる人が前回調査や全国調査に比べて低い傾向がみられる。

※全国調査の選択肢は、「1人」「2人」「3人以上」となっているため、全国調査の「3人以上」は「3人」とする。

図 2-44 希望する子どもの数（前回・全国との比較）（男性）

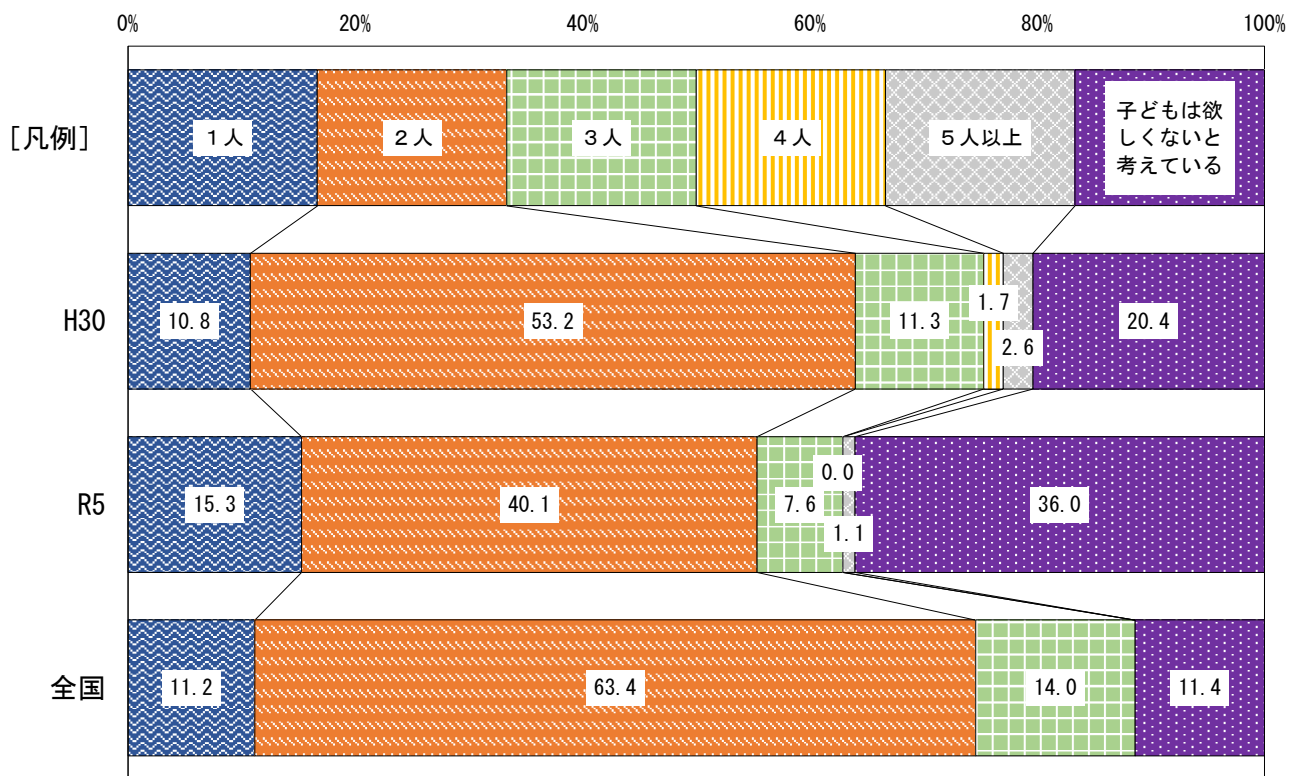
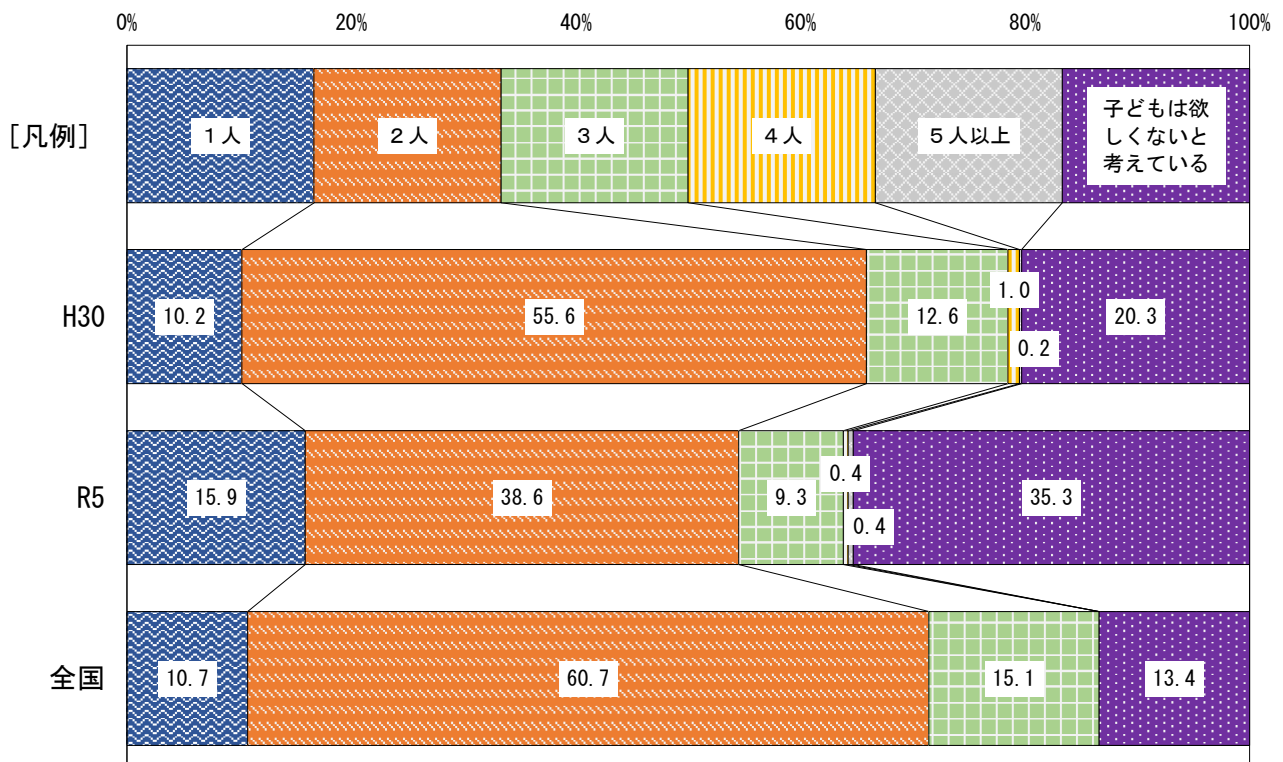


図 2-45 希望する子どもの数（前回・全国との比較）（女性）



雇用状況別にみると、男女ともに「正規の職員」では半数以上が複数の子どもを持つことを希望しているが、「派遣・嘱託・契約社員」では約半数が「子どもは欲しくないと考えている」と回答するなど、雇用状況による差が大きい。

図 2-46 雇用状況別による希望する子どもの数(男性)

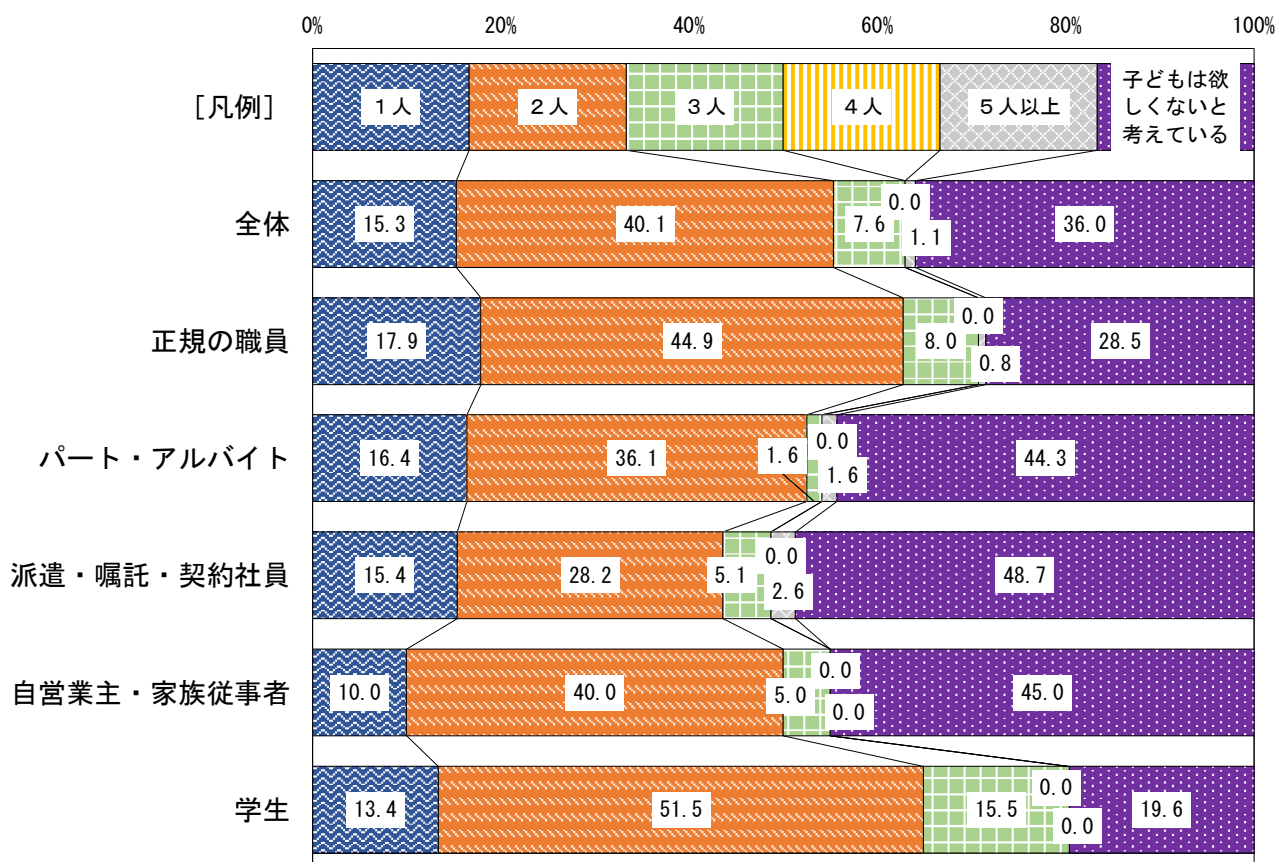
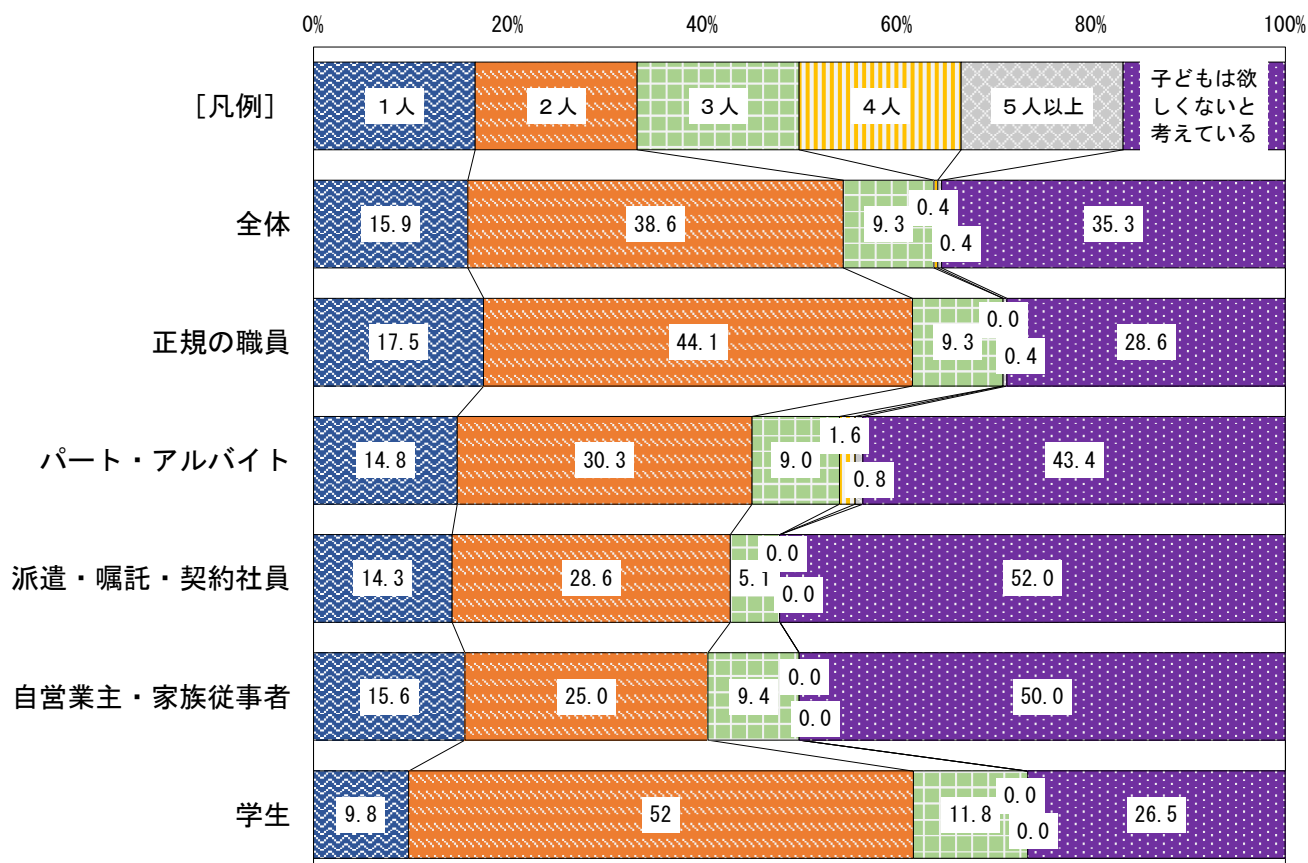


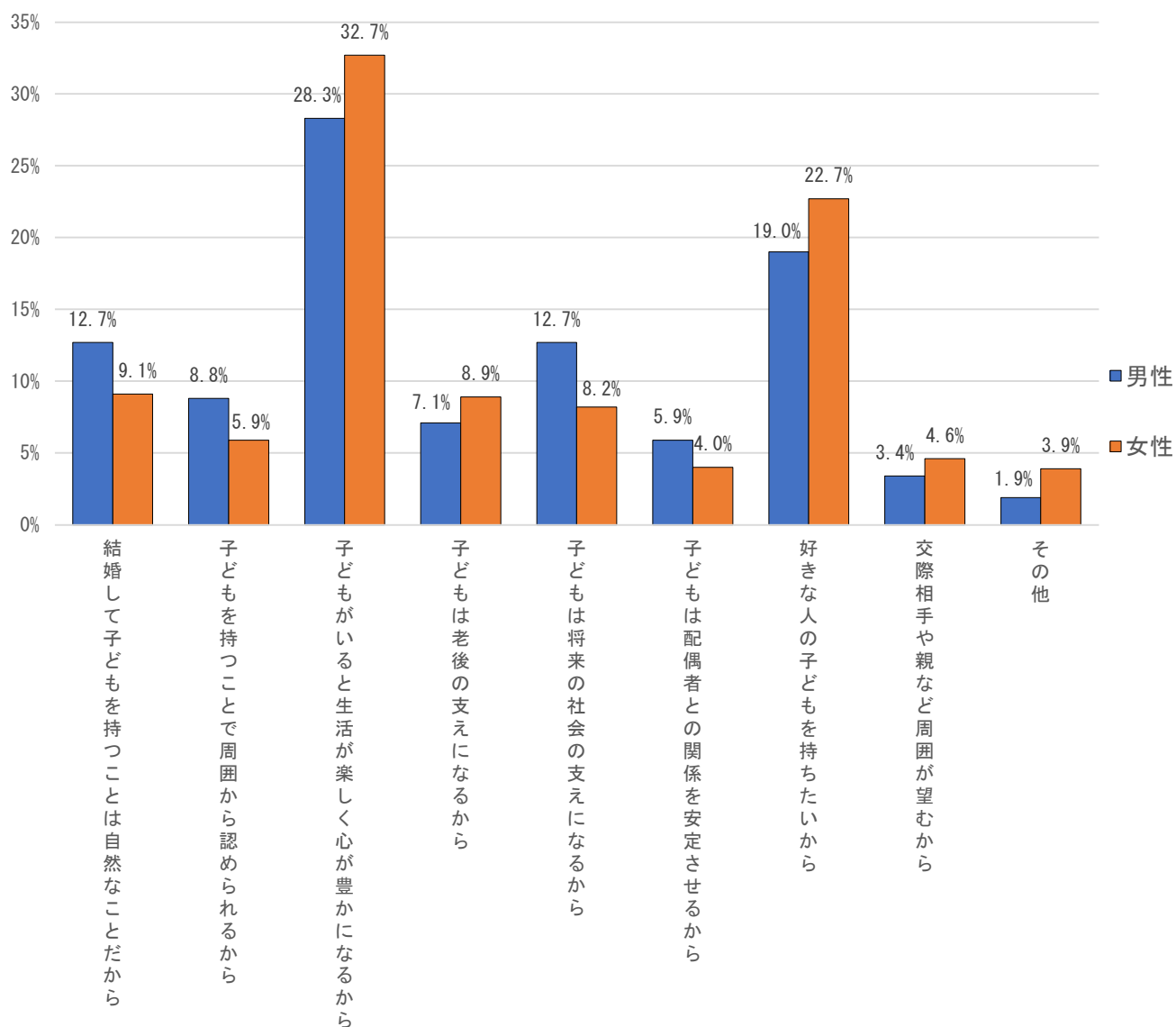
図 2-47 雇用状況別による希望する子どもの数(女性)



⑩ 子どもを1人以上欲しいと考える理由

子どもを欲しい理由としては、男女ともに「子どもがいると生活が楽しく心が豊かになるから」が最も高く、男性で28.3%、女性で32.7%となっている。次いで、「好きな人の子どもを持ちたいから」となっている。また男女で差が大きい項目としては、「結婚して子どもを持つことは自然なことだから」、「子どもは将来の社会の支えになるから」が女性に比べ男性で高く、3.6ポイント以上の差となっている。男性に比べ女性が高い項目としては、「子どもがいると生活が楽しく心が豊かになるから」、「好きな人の子どもを持ちたいから」で、3.7ポイント以上の差となっている。

図 2-48 子どもを欲しい理由



全国調査との比較でみると、男性では「子どもを持つことで周囲から認められるから」が全国調査に比べて 6.4 ポイント高く、「結婚して子どもを持つことは自然なことだから」、「子どもがいると生活が楽しく心が豊かになるから」が 3.1 ポイント以上低くなっている。女性でも、「子どもを持つことで周囲から認められるから」が全国調査に比べて 3.5 ポイント高くなっている。低い項目は特にみられない。

※前回調査は該当質問なし。

図 2-49 子どもを欲しい理由（全国との比較）（男性）

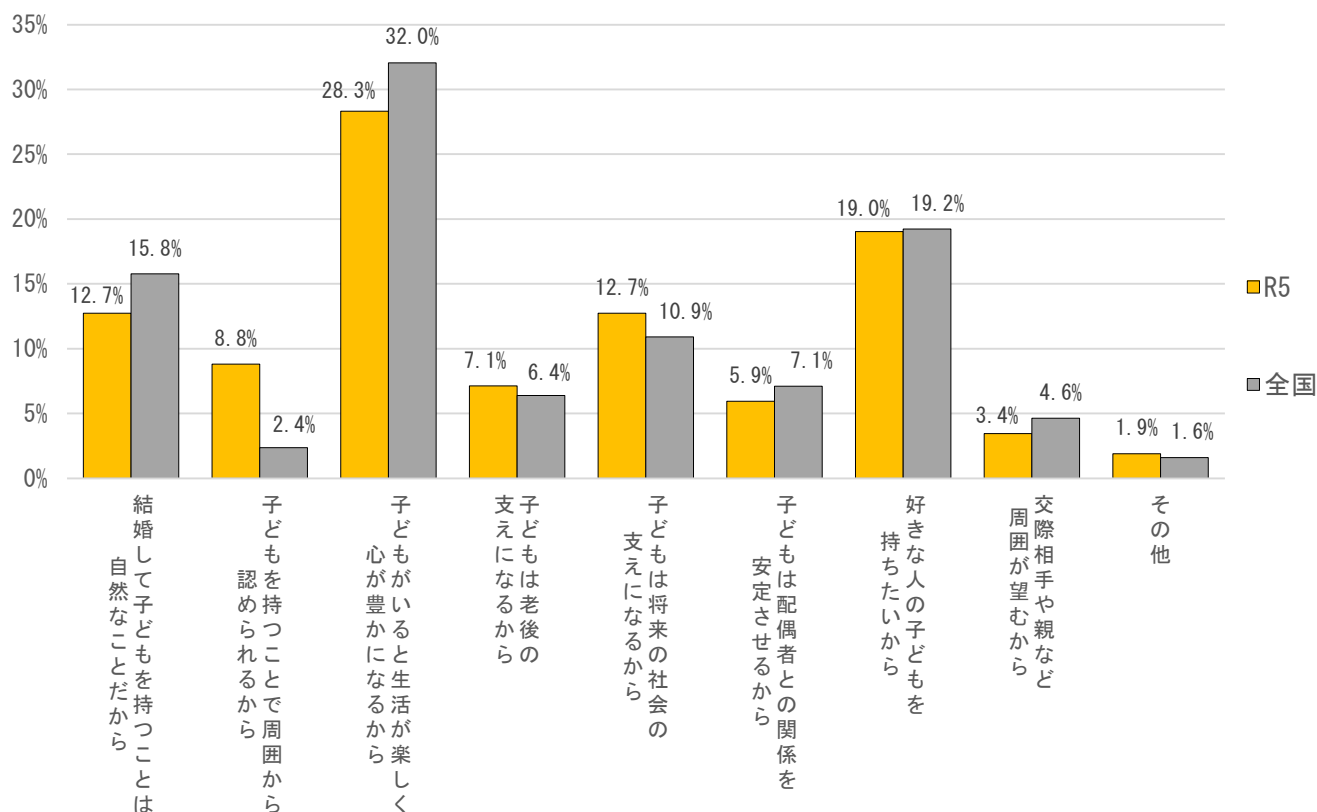
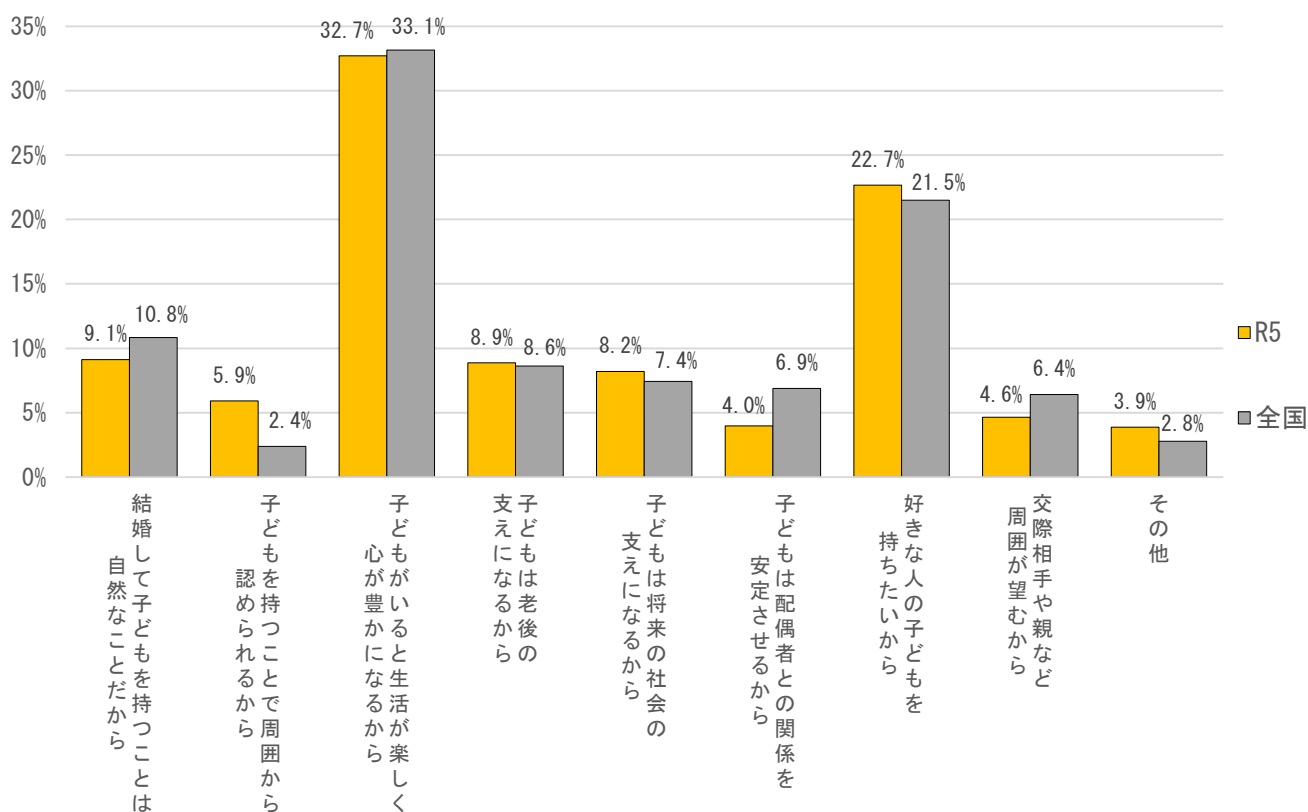


図 2-50 子どもを欲しい理由（全国との比較）（女性）

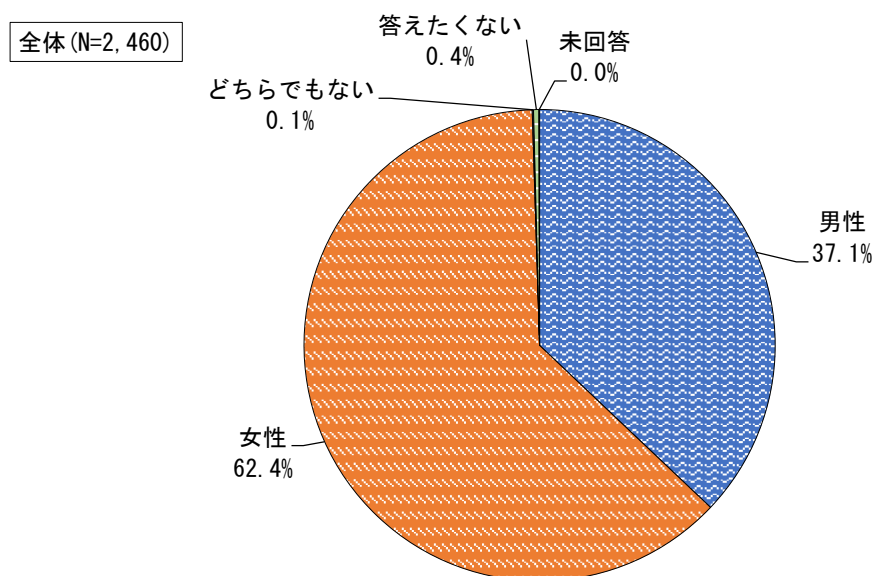


(3) 有配偶者アンケート結果

① 性別

「男性」が37.1%、「女性」が62.4%、「性別未回答」が0.5%となっている。

図 3-1 性別



② 結婚生活を始めた時期

現在の結婚生活を始めた時期について、男性では「2010～2014」が25.5%と最も高く、女性では「2015～2019」が25.9%と最も高い。

図 3-2 結婚生活を始めた時期

